



NPO 法人行田市民大学活動センター の誕生

副理事長 吉田 哲

宮里藍が31歳で現役を退くことになったとのニュースで驚いた。プロゴルファーとして25歳で世界の頂点を極め、トップとしてのプレッシャーでモチベーションを維持することが難しくなってのことだと言っていた。

70歳を過ぎてもなおゴルフに意欲を燃やし、只管森林浴のすがすがしさを味わい、健康維持のためのスポーツの域を脱しないわが方としては、いくつ叩こうがスコアには何の未練もない。



行田の市民大学が、生涯学習の意欲あふれる市民のグループによって市の協力を得て設立してから来年で10年目を迎える。ものづくり大学の教室を借りての授業から自前の教室を持とうと、足袋蔵の空き蔵を物色したり、生徒数の減った小学校の空き教室の利用を検討したりしながら、なかなか思いを果たせないでいる。それならば一層のこと、NPO法人化して収益事業を考えながら運営していくと平成28年6月に設立した。

NPOに詳しいメンバーと友連れて入会したメンバーとの温度差がありすぎて議論がかみ合わず、すったもんだしたが、生みの苦しみがある分、成果が出た時の感動を夢みて29年度は様々な事業を企画・実行して成果を上げていかなければと思っている。競争相手がいるわけではなくトップを目指す必要もない。

高齢化社会がさらに進み、ご近所を見ても自分中心の輩が多い。平均年齢70歳を超える市民大学生の、残りの人生の歩み方として、人様の役に立つ事を中心に考える団体があってもいいと思っている。

メンバーには自治会活動で自己犠牲を強いられているものもいるが、意欲も能力もある連中が率先垂範して末永くこの大学が存続していく事を願ってやまない。やる気のある者集まれ！！

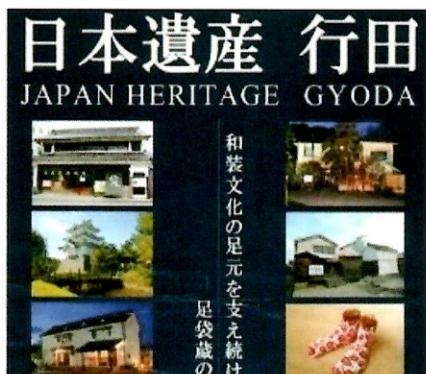
郷土の歴史と地形と成り立ち・・ 講義より！



5月18日に1学年の講義がありました。講師は行田市役所の「中島洋一」先生。1万4千年前頃、行田附近の平野部は利根川と荒川が合流して奥東京湾に流れ込んでおり、東方には渡良瀬川が流下していました。その影響で行田市付近の地下は固い地盤が波打っている状態で、その低地には土砂が堆積しているとのこと。その幾分高い箇所に、1万2千年前には人

が住んでいたとのこと。荒川が運んだ土砂が山地から急に平地に出る。今の熊谷付近で次第に堆積し利根川がせき止められ、東側への流れが生まれたそうです。行田市付近は全体に低地が多い所ですが、残された微高地や自然堤防等の高地に人が生活していました。市内では今の長野中学校庭から縄文時代の生活跡が認められます。市内の集落遺跡の例が馬場浦遺跡（旧石器・縄文・古墳～平安・中世・江戸時代）や小針遺跡（縄文・古墳～平安時代）など31例紹介されました。又、埼玉古墳群の前方後円墳は大仙古墳（仁徳天皇陵）の設計をもとに縮尺で造られているのも事実とのことです。酒巻の埋没古墳から出土した力士埴輪に見られる様に脚が大きく表現されているのは当時の高官だったことの証明にもなり、他の多くは脚の表現が無く筒状であり、階級が表現されているのです。

日本遺産 行田が文化庁から認定！



「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」として、4月28日に発表され「日本遺産 (Japan Heritage)」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。遺産を語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。次の例は、構成文化財の一部です。ぜひ、それぞれの

価値をじっくりと再発見してみてください。また初めて訪問する建物や食べ物を味わうことは自分自身への新発見となることでしょう。……

今津印刷所 行田の足袋製造用具及び製品 埼玉古墳群 忍城跡 石田堤
享保・天保年間行田町絵図 各・足袋蔵 足袋蔵まちづくりミュージアム 等

友好都市訪問（白河市史跡めぐり）

5月25日に2学年の視察ツアーが実施されました。ご存知の通り、文政6年（1823）に実施された三方領地替えで、白河藩主松平定永を桑名へ、桑名藩主松平忠堯を忍へ、忍藩主阿



部正権を白河へ転封した縁で、行田市・白河市・桑名市は平成10年に友好都市を締結した。この縁で行田市民大学では、2年生が毎年白河市の訪問を行っています。小峰城は、北の奥州からの攻



めの守りを主眼として完成したが、戊辰戦争の時には南から攻める新政府軍との間で3か月に渡り戦って、内部施設や城壁が完全に破壊されたと言われます。三重櫓は本丸の北東部の櫓で図面が残っていたために、木造で忠実に再現されました。

[編集：広報部・ 田口修、茂木幸蔵、小堤敏正]